

環境人材育成のための大学教育プログラム開発・実証委員会開発・実証委員会
全体委員会 議事概要

- 日 時 平成 23 年 3 月 22 日（火） 10:00～10:15
- 場 所 大阪府立大学 学術交流会館、特別会議室
- 出席者 府立大学：奥野・安保・正木・寺迫・菅野・辻田・小崎・前川、山本、萩原、高見沢、山口、高橋
関係行政機関等：荒木・古川・辻尾・寺島・古寺・大西・中村・木村
プログラム開発・実証コア教員：大塚・津戸・北宅・杉山・森岡・竹中
対外機関とのコーディネーター：前田・小林
事務局：竹本・北田・川路・増垣（記）・若木

■議事次第

1. 開会挨拶
2. 平成 22 年度の事業進捗状況及び平成 23 年度の事業計画
3. その他

■配布資料

- 資料 1：開発・実証委員会設置要綱
- 資料 2：プレゼンテーション資料
- 資料 3：履修案内パンフレット（平成 23 年度概要版）
- 資料 4：「環境人材育成のための教育プログラム」（履修案内）

■議事概要

○奥野（理事長・学長）が議長役となり開会

○（大塚・工学研究科教授/エコサイエンス研究所長）平成 22 年度の事業進捗状況及び平成 23 年度の事業計画案を説明

- ・環境省からの補助事業を開始して 2 年経過。1 年目は新しい教育プログラムの開設準備を進め、2 年目の平成 22 年度に、学部、大学院の講義科目を開設した。
- ・学部「環境・生命・倫理」は、履修生が 141 名で、全学部から学生が履修。
- ・学部「環境学と社会科学への招待」は、履修生が 76 名で、これも全学部から履修。講師にシャープを招く。
- ・学部「自然環境学概論」は、履修生が 48 名で、看護学部と総合リハビリテーション学部を除く 5 学部から履修。
- ・全学の学生に履修してほしいという所期の目的は概ね達成した。
- ・大学院「国際環境学特論」は、履修生が 15 名で、JICA、関西電力、大阪府に講師を依頼した。
- ・大学院「環境コミュニケーション特論」は、履修生が 11 名で、英語のほか、現地語も勉強してもらうために、ベトナム人講師やベトナム語の通訳を講師とした。
- ・大学院の「国際環境活動特別演習」では、平成 23 年度にベトナム・ハロン湾に学生を派遣

することとしており、そのための予備調査として、平成 22 年度 9 月に、奥野学長や学生を派遣した。また、ベトナムの関係者 5 名を大阪に招き、大学祭におけるごみの分別収集等を体験して頂いた。

- ・平成 23 年 2 月 10 日には、ワークショップを開催し、廣野・成蹊大学名誉教授に講演を頂いた。同日、担当講師による意見交換会も開催し、各科目の内容や順序について改善を図るとともに、科目間の調整も行った。

- ・平成 23 年度に開講する学部の「環境活動演習」は、履修生が 20～30 名程度と予測しており、グループを 4 つに分ける。4 月は講義とグループ分け、5 月は環境活動の企画、6 月～10 月に実際の活動を行い、11 月には成果発表を行う予定としている。講師には本学教員のほかに大阪ガスと堺ふれあいの森のレンジャーを予定している。

- ・大学院の「国際環境活動特別演習」は、履修生が 10～15 名程度をと予測しており、グループは 3 つに分ける。スケジュールは学部と同様であるが、11 月の成果発表会は、学部と大学院を合わせて行うこととしている。

- ・平成 23 年度は、環境省補助事業の最終年度であり、他大学の参考に資するため、マニュアルを作成する予定である。

- ・3 月 4 日、中間評価を行う環境省の「環境リーダー育成プログラム委員会」が開催され、本学の取り組みは高く評価されたが、この教育プログラムを修了した卒業生について、就職先の評価もフォローできるシステムを構築してほしいとの指摘があった。

○副専攻「環境学」の修了者が 30 名程度、「国際環境活動プログラム」の修了者が 10 名程度とのこと。環境学を構築しようと取り組みを開始し、全学の協力を得て、ここまで来た。環境省の事業が終了すると、大学としてどうするか考えなければならない。

○本委員会としては、教育プログラムの現状及び平成 23 年度の計画案を了承するが、引き続き、小委員会で意見交換、情報交換を図り、議論を深めてほしい。前期の授業が終了した時点で、状況の報告をお願いする。

以 上（敬称略）

国際協調力を持つ環境人材育成のための 教育プログラム開発事業

～環境人材育成に向けた学部・大学院の一貫教育～

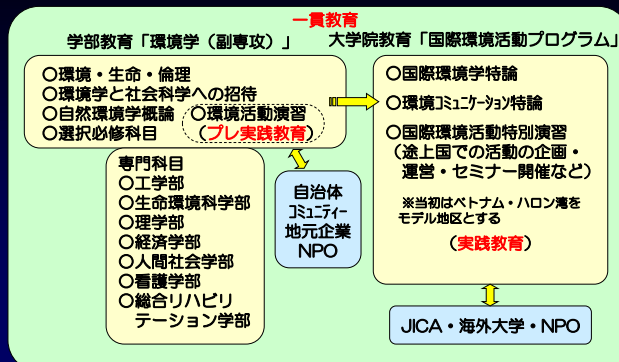
平成23年3月

公立大学法人
大阪府立大学

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



環境人材育成プログラム全体の概要



平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



プログラム実施スケジュール

		2009年度	2010年度	2011年度
学部教育	学内・他機関との調整			
	新規講義科目準備			
	新規講義科目開講			
	新規演習科目準備			
大学院教育	学内・他機関との調整			
	新規講義科目準備			
	新規講義科目開講			
	新規演習科目準備			
	新規演習科目開講			
共通	他開発途上国との調整			
	開発・実証委員会運営	●	●	●
	委員会・報告会開催			
	ホームページ開設更新			
	シンポジウム等開催	●	●	●
	履修案内等作成配布			
ハック化・マニュアル化				
関連機関への情報提供				

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「環境・生命・倫理」

学部

コーディネーター： 森岡正博（人間社会学部）

時間割： 前期水曜2コマ

受講者数： 141名（男65, 女76, ※全学部から受講）

内容：

- バイオテクノロジーの倫理・生命と環境の価値
- 原子力技術・環境・倫理
- 生命操作と家族・社会
- 環境哲学



平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「環境学と社会科学への招待」

学部

コーディネーター： 津戸正広（経済学部）

時間割： 後期水曜1コマ

出席者数： 76名（男54, 女22, ※全学部から受講）

内容：

- 自然・環境問題とその歴史的背景
- 環境権とは何か・環境問題と法律・環境税の事例
- 古代の自然思想・中世から近代の発展と環境開発
- 経営と環境戦略・企業の社会的責任（シャープ）
- 市場経済と生産の効率性・外部経済・公共財
- 産業革命・”Small is Beautiful”の功罪

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「自然環境学概論」

学部

コーディネーター： 横山良平（工学部）
北宅善昭（生命環境科学部）

時間割： 後期木曜5コマ

出席者数： 48名（男40, 女8, ※工学部、生命環境科学部、理学部、経済学部、人間社会学部（看護学部、総合リハビリテーション学部以外）から受講）

内容：

- 地球の自然と環境問題・生態系の概念
- 地球環境の化学・自然エネルギーの発生と利用
- 生物多様性・生態系の機能と遷移
- 産業活動と資源循環・物質循環
- バイオマスの利用・物質循環
- 地表面のエネルギーバランス・都市熱環境の改善対策

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「国際環境学特論」

大学院

コーディネーター： 横山良平（工学研究科）

時間割： 前期木曜3コマ

出席者数： 15名（男13，女2，※工学研究科と生命環境科学
研究科から受講）

内 容：

- アジア圏内における交流
- キリスト教と環境問題
- 中国の老荘思想と道教の自然観
- 持続可能な開発への国連機関の取り組み
- 発展途上国の経済発展と環境問題・国際協力（JICA）
- 低炭素社会実現に向けた企業の役割（関西電力）
- 地方自治体の環境行政と役割（大阪府）

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「環境コミュニケーション特論」

大学院

コーディネーター： 竹中規訓（工学研究科）

時間割： 後期木曜3コマ

出席者数： 11名（男10，女1，※工学研究科および生命環境
科学研究科から受講）

内 容：

- 基礎コミュニケーション英語および環境英語（ベトナム人講師）
- ベトナムのことばと生活・習慣・歴史・社会（ベトナム語通訳）
- ベトナムおよび東南アジアにおける環境問題
- 模擬環境保護活動演習および発表会

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



ベトナム・ハロン湾における 国際環境活動特別演習（予備調査）

- 事前準備活動：2010年9月4日～9月11日
- 府大参加者：奥野学長，大塚，北宅，学生4名他，計11名
- 活動内容：現地機関との連携強化，
現地活動における課題抽出



平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



ベトナム・ハロン湾における 国際環境活動特別演習（連携強化）

- 府大における研修：2010年11月7日
- 参加者：ベトナムからの研修員5名
- 活動内容：現地環境活動リーダーと学生との協働作業
学園祭におけるごみの分別収集



平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



環境人材育成のための教育プログラム ワークショップ

- 2011年2月10日（木）13:00～15:40
- 学長開会挨拶 奥野武俊
特別講演「大学における環境人材育成のあり方」廣野良吉
基調報告「実践型教育プログラムを展開」大塚耕司
リレー発表「コーディネーター教員の想い」
副学長閉会挨拶 安保正一



平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



講師意見交換会 （開発・実証委員会小委員会）

- 2011年2月10日（木）16:00～17:40
- 必修科目に関わる全講師による意見交換会
 - －必修の全プログラムの内容を全講師で確認
 - －受講生からのアンケート調査の結果を確認
 - －各科目の内容と順序の改善（オムニバス形式の中身の調整）
 - －科目間における内容と連結の調整
 - －講義科目と演習科目の連携の確認
 - －その他情報交換

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「環境活動演習」 (H23開講)

学部

コーディネーター： 大塚耕司 (工学部)

時間割： 時間割外

想定受講者数： 20～30名程度 (4グループ)

演習の内容：

- 環境教育・環境活動の必要性、グループ分け (4月土曜日)
- 環境活動の企画 (5月土曜日)
- 他機関との調整および環境活動の実施 (6月～10月)
- 環境活動結果の取りまとめと成果発表 (11月土曜日)

想定される活動の例：

- 府大キャンパスの環境モニタリング
- 大阪湾の環境保全現場における環境教育
- 省エネルギーに関わる小学校での出前授業 (大阪ガス)
- 堺市の里山保全活動 (堺自然ふれあいの森)

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



「国際環境活動特別演習」 (H23開講)

大学院

コーディネーター： 大塚耕司 (工学部)

時間割： 時間割外

想定受講者数： 10～15名程度 (3グループ)

演習の内容：

- 国際環境活動の必要性、グループ分け (4月土曜日)
- 国際環境活動の企画 (5月土曜日)
- 他機関との調整および国際環境活動の実施 (6月～10月)
- 環境活動結果の取りまとめと成果発表 (11月土曜日)

想定される活動の例：

- ベトナム ハロン湾における環境調査
- ベトナム ハロン湾におけるマングローブ植樹
- ベトナム ハロン湾における水上村小学生への環境教育

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



環境人材育成のための教育プログラム 開発マニュアル (目次案)

- 教育プログラム開発の背景と目的
- 教育プログラムの全体設計
- 学部プログラムの構成
- 大学院プログラムの構成
- 教育プログラム改善体制
- 関係資料集
 - ーアンケート結果
 - ー堺エコロジー大学概要
 - ーJICA草の根技術協力事業概要等

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業



終

平成22年度環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業

